

第2回小牧市情報教育 ICT 推進委員会 会議録

1 会議の名称

第2回小牧市情報教育 ICT 推進委員会

2 開催日時

令和4年2月7日（火）午後3時から4時30分まで

3 開催場所

小牧市役所 本庁舎4階 404会議室

4 報告及び議事

○報告

- (1) 小牧市学校教育 I C T 推進計画の進捗状況について
- (2) 令和3年度小牧市教育委員会情報セキュリティ監査の実施結果について

○議事

- (1) 小牧市学校教育 I C T 推進計画の見直しについて

○その他

- (1) 「小牧市G I G Aスクールを次ステップへ」（村松委員長から情報提供）

5 公開又は非公開の別

公開

6 出席者

(1) 委員

| 氏名 | 職名 |
|--------|--|
| 村松 浩幸 | 信州大学教育学部 技術教育グループ 附属次世代型学び研究開発センター長 |
| 牧野 かおる | 小牧市小中学校PTA連絡協議会会長 |
| 林 文通 | 岩崎中学校校長 |
| 梶田 光俊 | 大城小学校校長 |
| 水野 一哉 | 小牧市コンピュータ整備検討委員会委員 (篠岡中学校教頭) |
| 栗木 健二 | 小牧市IT活用研究委員会委員 (小牧原小学校教頭) |
| 岡田 紘司 | 小牧市IT活用研究委員会委員 (味岡小学校教務主任) |
| 高堀 文男 | 小牧市IT活用研究委員会委員 (北里小学校校務主任) |
| 伊藤 崇 | 小牧市コンピュータ整備検討委員会委員 (応時中学校教諭) |

(2) 事務局

| 氏名 | 職名 |
|--------|----------------------|
| 伊藤 武志 | 教育部長 |
| 石川 徹 | 教育部次長 |
| 櫻井 晃生 | 学校教育ICT推進室長 |
| 塚本 真也 | 学校教育ICT推進室 主幹 |
| 上原 みよ子 | 学校教育ICT推進室 ICT推進係長 |
| 加藤 千明 | 学校教育ICT推進室 ICT推進係 主査 |

(3) その他

| 氏名 | 職名 |
|-------|--------------|
| 小森 弘毅 | 株式会社EDUCOM |
| 山本 修也 | 株式会社フューチャーイン |

7 傍聴者 0名

8 会議資料

資料1 委員名簿

資料2 小牧市学校教育ICT推進計画の取組状況

資料3 ICT活用事例集（令和4年1月末時点）

資料4 令和3年度小牧市教育委員会情報セキュリティ監査結果

資料5-1 第2次小牧市学校教育ICT推進計画（案）について

資料5-2 第2次小牧市学校教育ICT推進計画（案）

「小牧市GIGAスクールを次ステップへ」

「GIGAスクール構想 年度更新タスクリスト」

9 会議の結果及び経過

（事務局：櫻井室長）

それでは、定刻となりましたので、ただいまより、第2回小牧市情報教育ICT推進委員会を開催させていただきます。

私は、本日の進行を務めます学校教育ICT推進室長の櫻井でございます。よろしくお願いいたします。

今回は、県外の村松委員とTeamsを活用して、オンラインで接続した形で開催させていただきます。よろしくお願いいたします。

本委員会は公開となっておりますが、本日の傍聴者はありません。

会の開催にあたり、村松委員長から、ご挨拶をお願いいたします。

(村松委員長)

本日は、ご多用の中お集まりいただき、ありがとうございます。長野の方もまん延防止等重点措置により県外移動の制限がありますので、オンラインでの参加をご了承ください。

G I G Aスクールは1年経過して全国で本格的に動いています。小牧市は、先駆けて取組みを進めてきましたので、1年間の取組みをまとめていただき、外部へ情報発信していけたら良いと思います。

本日は限られた時間ですがご協力をお願いいたします。

(事務局：櫻井室長)

ありがとうございました。それでは、ここからの進行につきましては、委員長にお願いをしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

(村松委員長)

はじめに、1点進行上のお願いをさせていただきます。本日の審議終了時間は、午後4時30分頃を予定しています。なるべく多くの方にご発言いただきたいため、ご意見は1回につき、2点まででお願いします。いつもですと、ご意見等については挙手していただき、お名前をお呼びした後、発言いただくのですが、今日はモニタ越しですので、梶田副委員長に発言者の指名等をお願いいたします。

それではお手元の次第に基づいて会議を進めます。

次第の2、報告に入ります。報告の1、小牧市学校教育ICT推進計画の進捗状況について、事務局より説明をいただきます。

(事務局：上原係長)

平成 31 年 2 月に策定された「小牧市学校教育 ICT 推進計画」の第 4 章に記載されております ICT 教育に関する様々な取組みを推進しているところです。その各取組みの進捗状況につきましては、本委員会に報告し、ご意見をいただくこととなっており、昨年 2 月に開催された本委員会においても、昨年 2 月時点の取組状況を報告させていただいたところです。

資料 2 「小牧市学校教育 ICT 推進計画の取組状況」をご覧ください。こちらは、推進計画第 4 章に記載されております取組項目について、上段に計画を策定した平成 31 年 2 月当時の計画内容を記載し、下段に今年度の取組状況として、令和 4 年 2 月時点の内容を記載しております。

それでは、主な項目について説明させていただきます。まず「1. 全体計画や運用ルールなどの整備」につきましては、1 ページ目をご覧ください。1、全体計画や運用ルールのなどの整備について、この後の議事でも取り上げられますが、小牧市学校教育 ICT 推進計画の第 2 次計画を作成することを記載しております。

②では、現在、教職員を委員とするコンピュータ整備検討委員会で進められておりますセキュリティポリシー及び運用マニュアルの見直しについて記載しております。

2 ページ目をご覧ください。小学校 3 校、中学校 3 校で学習者用デジタル教科書を活用した授業実践に取り組んでいること、また、パイオニア校の先進校視察について、タブレット PC の活用の実践事例集（資料 3）を作成することを記載しております。

3 ページ目をご覧ください。①として、9 月以降、大規模中学校において校内 Wi-Fi の接続状況が良くない状況がみられましたので、ネットワークの再設定をしたこと、また、4 ページに③として、中学校の生徒用タブレットカバーを整備することについて記載しております。

5～6 ページ目をご覧ください。②として、各種研修について触れております。また、③として、ICT 支援員の訪問回数を今年 4 月から全小中学校で月 4 回としたこと、来年度からの受託業者について公募型プロポーザルで選定したことについて記載して

おります。また、④として、端末の持ち帰り及び9月から実施している授業のオンライン配信のこと、適応指導教室及び日本語初期教室に学習者用ノート PC と Wi-Fi を整備したことについて記載しています。

7 ページ目をご覧ください。①については、情報発信としてホームページアクセス数や保護者メール送信数を記載しています。

8 ページ目をご覧ください。②として、10月から運用を開始した出退勤システムについて、また、2月から機能追加しました C4th ポータブルについて記載しています。

④として、1月から運用開始します新しい図書管理ツールについて、また、⑤として学校徴収金システムの改修について記載しております。

9 ページには、本計画の進捗状況を測定するための指標一覧を掲載しています。

以上、簡単ではありますが、推進計画の主な取組状況についての説明を終わります。

(村松委員長)

それでは、ご質問等ありましたら、挙手をお願いします。

計画の進捗状況の中で、セキュリティ関係は、このあとに監査の報告があると思いますが、学習者用デジタル教科書の活用について、活用事例集もありますので、関わっている委員から報告をいただけますでしょうか。

(梶田副委員長)

それでは、学習者用デジタル教科書を実際に活用しているパイオニア校、該当校の先生で、応時中学校の伊藤委員からお願いします。

(伊藤委員)

私の担当している社会科では、学習者用ではなく指導者用のデジタル教科書を活用しています。他の教科では学習者用デジタル教科書を使用して授業を行っています。指導者用もとても便利で、他教科の先生方からも ICT が必要だという声を聞きます。デジ

タル教科書があることによって、資料提示を簡単に行うことができ、大きく見せることで生徒に伝わりやすい、視覚化しやすいことがメリットだと思っています。

(村松委員長)

ありがとうございました。味岡小学校で事例が2つほどありますので、お話をいただければと思います。

(岡田委員)

本校では、ほとんどの先生が毎時間、指導者用デジタル教科書を授業で活用しています。学習者用については、社会科のデジタル教科書を活用しています。先生方の声としては、指導者用に比べると動画等が少ないところが残念だということ聞いていますが、本校はICTに長けた先生が多いので、こどもたちの学びを深めるために、上手に活用しています。

(村松委員長)

もし、先進校視察に行かれた先生がいらっしゃれば様子を共有していただけますか。

(梶田副委員長)

コロナ禍のため、先進校視察に行った委員はいませんが、事務局の塚本主幹が視察に行ったので、お話をさせていただきます。

(事務局：塚本主幹)

学校教育ICT推進室の塚本です。岡崎市に視察に行きまして、授業の様子を見てきました。日常的に道具として使用しており、使うことが目的ではなく、必要なときに必要な場面で使用していました。本市でもこういう使い方を目指していきたいです。また、ネット環境がスムーズだったのが印象的でしたので、同様のネット環境が構築できるよ

うに業者と調整して進めているところです。

(村松委員長)

端末の持ち帰りで取り組んでいることはありますか。

(高堀委員)

北里小学校の高堀です。3学期からは全学年月1回の目安で持ち帰りを行っています。学年によっては毎週持ち帰っています。現在、4年生以上は学校の臨時休業に備えて毎日持ち帰って、学校から出された課題に取り組んでいます。課題を毎日出しているわけではありませんが、健康観察など、こどもの様子をしっかりと確認ができるように端末を家庭に持ち帰って活用することを進めています。

(水野委員)

篠岡中学校の水野です。端末を持ち帰る際、タブレットならではの課題をなんとか探して出題しています。冬休みの持ち帰りの折には、3年生を対象に技術科の宿題で、車のフロントガラスがプラスチックにならない理由について、インターネット等で調べて自分の考えをまとめるという課題を出しました。生徒は、苦勞して課題に取り組んでいました。

(村松委員長)

ありがとうございました。

最後に、校務支援システムの関係や Wi-Fi 整備の効果などはいかがでしょうか。

(梶田副委員長)

校務支援系で変わったのは、図書管理システムですが、実際に触れている委員がいないので実感はないかもしれません。出退勤管理で機能が追加されましたが、林委員、管

理職の立場からいかがでしょうか。

(林委員)

岩崎中学校の林です。出退勤については、今までタイムカード等はなかったので、定着するまで戸惑いがありました。一月やってみると浸透してきて、今では当たり前のように出退勤システムに入力しています。入力し忘れることも少なく、リアルタイムで記録がとれています。

あと、2学期にかけて校務系と校務外部接続系にネットワークが物理的に切り分けられたため、先生方のセキュリティに対する意識が変わってきました。外向けにできること、校内でしかできないことをきちんと分けて取り組もうとしています。

(村松委員長)

ありがとうございました。出退勤システムは、これからの働き方改革のベースの部分だと思います。また、セキュリティに関することも大事だと思います。

その他、ICT推進計画に関わることで情報共有できるものがありましたらお願いします。

(梶田副委員長)

大きく変わったこと、特筆するような内容はお話させていただいたと思います。

(村松委員長)

今のお話を踏まえて、計画の最後にある進捗状況の指標など、効果を確認しつつ、次につなげてほしいと思います。

続きまして、報告(2)令和3年度小牧市教育委員会情報セキュリティ監査の実施結果について、事務局より説明をいただきます。

(事務局：上原係長)

資料4をご覧ください。

教育情報セキュリティポリシーに基づきまして、小学校3校、中学校2校の計5校を対象に、セキュリティ監査を実施いたしました。資料4はその結果をとりまとめた中間報告となります。

監査方法は、①教職員へのアンケート調査、②校務外部接続系端末のフリーソフトウェア調査を行うとともに、③職員室の現場調査及び担当の先生からの聞き取り調査を行いました。監査結果のうち、ポイントとなる指摘事項について説明いたします。

3(1)をご覧ください。まず、教職員アンケート調査による自己点検及び先生からの聞き取り調査からは、昨年10月から運用開始しました出退勤管理システムについて、入力を忘れる教職員がいたため、出校時及び退校時の入力の徹底について再度周知されたいこと。次に、電子メールについて、個人情報など重要な情報資産を外部に送信する場合は暗号化またはパスワードの設定をすること、また、各種データを取り扱うにあたり、「情報資産の分類」の重要性に照らし合わせ、端末やデータの保存先を区別することを全校共通の指摘事項としております。

次に、三ツ渕小学校、味岡小学校、篠岡中学校、北里中学校の4校につきましては、まず、小牧市教育情報セキュリティポリシー及び実施手順を読んだことがない教職員がいたため、ポリシーの周知を再度行っていただきたいこと。端末の情報が漏えい防止のため、長く席を外すときは端末をロックしたり、帰宅時には端末をシャットダウンすること。次に、C4thをはじめ、各システムのパスワードを机上にメモしたり、オートコンプリート機能を有効にして、自動で入力したりしないことを指摘事項としております。

次に、味岡小学校、篠岡中学校、北里中学校につきましては、業務以外の目的で、電子メールアドレスの使用やインターネットへのアクセスをしないこと、クラウド上へのデータのアップロードは情報資産の内容・公開の可否などを踏まえて適切に判断したうえで、クラウド上に保存したデータを学校外のパソコンにダウンロードしない指摘事項

としております。

(2) 校務外部接続系端末のフリーソフトウェア調査についてです。前提としまして、教職員用の端末は市教育委員会が定めた以外のソフトウェアをインストールすることを原則禁止しており、新たなソフトウェアのインストールが必要な場合は、学校教育ICT推進室長に申請し、許可を得る必要があります。今回の調査では、管理ソフトにて、昨年11月8日時点で、対象校の校務外部接続系端末にインストールされているソフトウェア情報を取得しました。

結果としまして、対象端末数143台のうち、必要な申請手続きを経ずにフリーソフトをインストールした端末が7台確認されましたので、業務上必要なフリーソフトがある場合は、必ず学校教育ICT推進室長に申請し、許可を得るよう周知徹底することを指摘事項としております。

(3) 現場調査及び教職員ヒアリングについてです。対象校の職員室を確認したところ、三ツ瀨小学校他3校において、離席者の机上で校務系パソコンの画面がロックされずに閲覧できたり、パソコンの近くに飲み物が入ったマグカップ等が置かれているといった状態が見られましたので、こういった情報漏えい及びコンピュータの故障につながる行為をしないよう、周知徹底することを指摘事項としております。また、篠岡小、篠岡中学校において、各教室に設置しているタブレット用充電保管庫の鍵について、管理職が鍵の使用状況を随時把握できるように管理方法を改善することを指摘事項としております。

以上の結果については、すでに対象校に通知するとともに、改善措置を講じるよう通知いたしました。また、来年度以降も、毎年度5校を対象にセキュリティ監査を実施し、その結果については本委員会に報告させていただきます。

(村松委員長)

フリーソフト関係など細部にわたって監査できていると思います。それでは、ご質問等ありましたら、挙手をお願いします。

(水野委員)

本校は監査対象校であり、5台の端末にフリーソフトが入っていました。そのうち3台は、支給されたマウスではなく、自分のマウスを用意して使用した際に、自動でドライバのソフトがインストールされてしまったものです。知らないうちに自動でソフトがインストールされてしまうこともあるということを知ってもらえるといいです。あと、パソコンの近くにマグカップを置くことを禁止にするのは難しいと思います。どうしても飲み物は飲みます。蓋付きのマグカップを利用する等がいいと思います。禁止と言いながらルールが守られないよりも、守りやすく安全なルールにできるといいと思います。

(村松委員長)

ご指摘の1点目、意図しないフリーソフトのインストールについては、当事者から指摘に対する説明を求めたり、簡易に申請できる仕組みが検討できるといいと感じました。

マグカップの件など、セキュリティに関することは、ルールと使い勝手のトレードオフが必ず生じます。どうやってバランスをとるのかは監査を踏まえて、この委員会などで方向性を議論できたらいいのではないのでしょうか。監査の内容についても適宜見直しを行う必要があると思います。

(高堀委員)

普段、自分も蓋付きのペットボトルやマグカップをパソコンの側に置いています。机上では情報機器に限らず、書類も扱っているので、十分に気をつける必要があると思います。

(栗木委員)

私は、ノートパソコンは立っている状態にしてあり、私物のワイヤレスキーボードを使用しています。水野委員の話聞いて、ドライバを読み込んだ場合、フリーソフトと

汎用品どちらに分類されるのかなと考えていました。コップが倒れないようにするのは、コンピュータに限らず、書類も一緒のことで、常に注意する必要があると思います。

(梶田副委員長)

先ほどの新しいデバイスをインストールする件は、ネットワーク分離した後、校務系についてはUSB接続を完全にシャットアウトしたため、今まで使用しているもの以外は使えなくなります。今後は、新しいデバイスをインストールして、それに付随してフリーソフトウェアがインストールされることは絶対にはないと思います。校務外部接続系端末については、利用が可能なので気をつけなければいけません。

本校であった事例ですが、インストールされているソフトウェアのアップデートを行ったら、それに付随してプラスアルファのソフトウェアがインストールされてしまいました。何がインストールされているのか確認する方法を確立する必要があります。

(村松委員長)

ソフトウェアは日々アップデートされるので悩ましいところです。

セキュリティ監査の対象は先生方でしたが、昨今、ニュースでも取り上げられているように、子ども自身がパスワードの管理をやれているのか、子どもたちのセキュリティ、モラルのチェックや状況把握はどうでしょうか。先生方が見て感じたことなどを共有していただきたいと思います。

(伊藤委員)

端末を持ち帰ること、タブレットは市から借りているものだとしっかり伝えた上、全ての記録は残っていくこと、いわゆるSNSなど、全てが情報開示の対象になることについて伝えています。本校で何かあったとは聞いていませんが、我々のところに情報が入ってきていないだけかもしれません。これからも注意深く見ていく必要があると感じています。

逆に、いいなと思ったのは、Teams でオンライン授業を行った際、チャット機能について、いい意味で活用されるのか心配していましたが、こどもたちが授業前に「お願いします」、授業後に「ありがとうございました」と送っていたのを見て、学校とのつながりを感じる部分もあっていい機能だと思いました。使い方については、これからも気をつけて見ていきたいです。

(村松委員長)

チャットをこどもたちが上手に使っている様子が分かりました。いくつかの学校では、ライセンス制度として、例えばシルバー、ゴールドなど段階的にできることを広げる指導しているところもあります。先生方のセキュリティとともに、こどもたちのセキュリティ、モラルをどのように学校で抑えていくのか検討していただければと思います。セキュリティはシビアな話になりがちですが、大事なところなので、監査結果を踏まえて改善等につなげていってほしいと思います。

続きまして、次第の3、議事に入ります。議題の1、小牧市学校教育ICT推進計画の見直しについて、事務局より説明をいただきます。

(事務局：塚本主幹)

それでは、小牧市学校教育ICT推進計画の見直しについて、説明させていただきます。本計画につきましては、前回6月24日の第1回委員会で「主な見直し内容」についてご説明し、委員の皆様からご意見をいただきました。その後、いただいたご意見を踏まえ、ICT検討委員会にて、第3章 基本方針、第4章 具体的な取組みを中心に議論を積み重ねていただき、作成したものが今回の資料5-1と5-2となります。

それでは、資料5-1、5-2をあわせてご覧ください。事前に資料をお配りしておりますので、主な変更点について説明させていただきます。資料5-2について現計画からの変更箇所は赤色で表示しております。

まず、第1章の策定については、2ページ、計画年度について、「小牧市教育振興基

本計画」とあわせ、令和4～8年度の5年間としました。3ページ、SDGsの位置づけについて記載しました。3～5ページの国等の動向について、最近の動向を踏まえた時点修正を行いました。

続いて、第2章の小牧市の現状と課題についてです。6～14ページの(1)現状のICT環境については、臨時休校における取組みの追記など、時点修正を行いました。

15ページからの(2)児童生徒・保護者・教員アンケート結果については、パイオニア校で実施したアンケート査結果を掲載しつつ、児童生徒、保護者、教員別に小牧市の傾向について記載しました。

21ページには、(3)家庭内のICT環境として、今年度実施しました1人1台タブレットPCの持ち帰りとインターネット接続の検証結果について記載しました。

22ページからの(4)今後取り組むべき課題は、10項目記載しています。②情報モラルの育成、③ICTの効果的な活用、⑤保護者及び地域との交流・情報発信、⑦クラウドサービスの活用を前提としたICT環境の整備、⑩非常時・緊急時におけるICT活用・学びの保障について、新たに記載しました。

続きまして、26ページ、第3章の基本方針をご覧ください。本計画の目指す姿での内容について再確認した結果、「時代を切り拓くこども」自体は変更せず、「2. 情報を読み解く力」を「情報を取捨選択し、読み解く力」としました。

27ページからの基本方針については、第2章に記載した「今後取り組むべき課題」に対する8つの方針を記載しています。

まず、①の「こどもの学習プロセスにおけるICTの活用」のところで、「ICTを学びの道具とした効果的な活用」と明記しました。

28ページには、児童生徒1人1台端末の整備後は特に情報モラルの育成が重要だと考え、「②情報モラルの育成」として項目だしました。また、29ページの「③ICTの効果的な活用」には、新たに「学習者用デジタル教科書」について記載し、電子書籍の活用についても触れています。また、30ページでは、「多様な人たちとつながる学び」にICTを活用することを記載しました。

「④特別な支援を要するこどもの教育におけるICTの活用」においては、新たに、日本語初期教室や適応指導教室でのICT活用について記載しました。

31 ページをご覧ください。「⑤保護者及び地域との交流・情報発信」では、保護者・地域との共通理解を図ることについて記載しました。

「⑥校務事務における活用」では、欠席連絡及び連絡帳など、保護者と学校間の連絡方法のデジタル化に取り組むほか、会議資料等のペーパーレス化の推進について記載しました。

「⑦クラウドサービスの利用を前提としたICT環境の整備」では、第2次計画期間中においても、パイオニア校方式にてICT機器及びソフトウェア等の試行検証を行うことを記載しました。

また、32 ページ、アクセスポイントの増設など校内・校外通信ネットワークの強化ですとか、将来的な教育ネットワークの構築の在り方について記載しました。

最後に、「⑧非常時・緊急時におけるICTの活用」として、オンライン学習等による学びの保障について新たに記載しました。

33 ページからは、第4章として、計画期間中の具体的な取組みについて記載しました。また、40 ページには、ICT機器の整備状況及び更新予定年度を記載しております。

42 ページ、「第5章 計画の進捗管理」においては、進捗状況を測定するための指標を見直しし、教員のICT活用状況を図る指標として、3つの指標を追加しました。

以上が計画（案）の主な見直し内容でございます。

また、計画の次につけておりますが、本計画の内容について、教職員等に周知を図るため、A3・1枚の概要版もあわせて作成しております。

本日は、本計画（案）につきまして、委員の皆様からご意見をいただきたくお願いいたします。いただいたご意見を踏まえまして、計画案を修正したうえで、今年度中に教育委員会の議決を得て、策定・公表する予定であります。よろしくご願ひいたします。

(村松委員長)

前回から今回までの間に、ICT 検討委員会で、梶田副委員長をはじめ、委員の皆さんがお忙しい中、話し合われたと聞いております。ありがとうございます。

ボリュームがありますので、まず、第1章と第2章について、SDGs など新しい内容も盛り込まれています。委員の皆様からご意見・ご質問をいただければと思います。いかがでしょうか。

(村松委員長)

私から2点よろしいでしょうか。15 ページから児童生徒や保護者のアンケート結果が記載されており、こういったデータが重要だと思います。今回の計画書の見直しではなく、今後の参考にしていただきたいのですが、先生方のところで、アンケートをとって活用したい、興味が高まったというのは非常にいいと思います。あと、指標としてよく用いられる文科省の活用指導力調査がありますが、全国との比較を掲載してもいいと思います。

これから先、アンケートをとる際に検討していただきたいことは、ICTの活用によって児童生徒の学びが深まっているのはいいことですが、同時に大事なものは、先生方自身の授業が変わってきているかということです。分かりやすいことも大事ですが、次のステップで児童生徒が主体的に関わってきて、授業が変わってきているかどうか。先進校をみると、1 台端末を整備して先生方の授業スタイルが変わってきています。先生方の授業の変化が分かるような項目を検討していただけるといいと思います。

もう1点は、22 から 23 ページのICTの効果的な活用、第3章にも関わりますが、個別最適な学び、協働的な学びの具体的な取組みも大事ですが、現在、国が動き出しているのが教育のデータを活用することです。子どもたちがICTを学びに使用した際、様々なデータ、履歴をとることができ、これをどうやって学習に活かしていくのか。小牧市はICTの活用が進んでいるので、デジタル教科書が入ってくると、学習履歴が集めやすくなります。当然、学習履歴を集めるときに注意しないといけない点もあります

が、学習履歴を活用してどうやって授業を改善するのかについても検討いただければと思います。

(村松委員長)

他に第1章と第2章についてよろしいでしょうか。

続きまして、第3章について、ご意見・ご質問等ありましたら、お願いします。

(岡田委員)

26 ページ、時代を切り拓くこどものところ、2番に情報を取捨選択するという記載について、これからのこどもたちは、情報に溢れている社会を歩いていくこととなります。この力は非常に大事なと授業を行っていて感じます。調べ学習でネットから持ってきた情報が本当に正しいのかこどもたち自身が判断する力は必要なもので、この文言が入ったのはいいと思います。

あと、28 ページの情報モラルの育成ですが、私は高学年を担当することが多かったので、実際にSNS上の書き込みトラブルなどがありました。どんどん情報化社会が進んでいく中で、家庭において情報モラルを育成する力のはのびていないと感じる部分もあるので、学校で積極的に情報モラルを育成していく必要があると思います。

(水野委員)

特別な支援を要するこどもたちのところは、今ある機械だけではできません。まだ伸び代が大きい部分だと感じます。ただ、特別な支援を要するこどもたちというのは、ひとりひとり違います。記載としてはこういう感じになると思いますが、全てに対応するのは難しいと感じました。

(林委員)

本校は2年間、愛日地区の研究指定をいただいて、今年、発表を行いました。研究と

いうと、どうしても教師が中心に基本方針を考えていきますが、こどもたちはどう思っているのか勇気を出して聞いてみたことがあります。自分たちが目指している授業は、本当にこどもが望んでいるものなのか。意外に辛辣な意見があったり、予想以上に具体的な提案をする生徒もいたりしました。今後、ICT機器が学校に配備されることによって、こどもたちがこれを使って何をしたいのか、どんな教育を夢見ているのかなど、こどもの言葉で聞いてみるのもいいなと思いました。例えば、毎年の先生方への意識調査と同じように、こどもたちにも具体的な提案とか望んでいるICT教育というような項目でアンケートをとり、こういったところにこどもの言葉が入ってくるといいなと感じています。

(梶田委員長)

こどもたちという言葉がありましたので、保護者の立場で牧野委員に感想をお話いただきたいです。

(牧野委員)

今年度、市P連の会長をしている牧野です。32ページの8番について、先週、私のこどもが通う小学校ではオンライン授業がありました。私は仕事を休めなくて、小学4年生の娘をおいて仕事に行ってしまったのですが、帰宅後、ちゃんと接続できたのか聞いたところ、学校で試しにやってみるのとは状況が違って、こども一人なので、定時には参加できず、遅刻して何とか授業に参加できたようです。夕方、学校に電話をして4年生の状況を聞いたところ、参加できなかったこどもが何人かいて、最後まで参加できなかったこどももいたので、全員が参加できるように、もう一度、見直して教えていきますと言ってもらえました。

オンライン授業の内容は確認していませんが、授業が分からない子もいると思います。保護者としては、そのまま流れていってしまうのがすごく心配です。先生方をお願いしたいのですが、授業の最中でも、授業が終わってからでもいいので、分からないところ

がなかったかどうかフォローをしていただきたいと思います。授業についていけないまま、見てだけで終わってしまうのではなくて、きちんと授業に参加できる形で進めていただけると、保護者としてはありがたいです。

(村松委員長)

保護者の立場からのご意見ありがとうございます。オンライン授業について、丁寧な指導をしつつ、その成果と課題が盛り込まれると充実した内容になると感じました。

その他、ご意見はありますでしょうか。

(栗木委員)

28 ページに自学自習のための活用と記載されています。子どもたちがドリル学習をできるようにし、先生も子どもたちの学習状況が把握できます。子どもたち自身が苦手な部分、不足している部分を確認して、子どもたち自身が埋めていくのがこれからの学習だと思います。教師が与えた課題に取り組むだけでなく、自分たちで主体的に取り組む学び方を伝えていくことが必要です。そういうことができるソフトウェアを導入することで、自学自習をより積極的に、モチベーションを高く保って行うことができるようになると思います。

(村松委員長)

学び方を自ら学ぶというのは大事なご指摘だと思います。その他、よろしいでしょうか。

それでは、最後に第4章から5章についてはいかがでしょうか。

しっかりした計画になっているので、他市町村は羨ましいと思います。

(村松委員長)

意見も出尽くしたようです。もし、お気づきのことがありましたら、事務局へご連絡ください。

今年度、本委員会の開催は今後予定されていませんので、本日ご発言がなかった箇所についても何かお気づきのことがありましたら、今月中に事務局へご連絡いただきますようお願いいたします。いただいたご意見は、本日の議事内容を踏まえて、私と梶田副委員長と事務局において計画案を修正させていただきます。修正点については、事務局から皆様に報告させていただく、一任ということによろしいでしょうか。

～異議なし～

(村松委員長)

ご賛同いただけましたので、一任という形で進めさせていただきます。

それでは、次第の4、その他について、事務局から何かありますか。

(事務局：塚本主幹)

ご意見をいただき、ありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、児童生徒1人1台端末が早期整備され、全国の学校でタブレットの活用が広がっています。

また、国では、学習者用デジタル教科書や CBT システムの検討が進められています。本日は、せっきくの場合ですので、全国の ICT 状況に知見をお持ちの村松委員長より、資料をいただいている「ICT 教育にかかる最新情報及び先進事例」などについてお話いただき、その後、委員間で意見交換を行っていただきまして、今後の取組みの参考とさせていただきたいと考えております。よろしくお願いたします。

(村松委員長)

それでは、小牧市G I G Aスクールを次ステップへということで、短時間ですが紹介させていただきます。

現在、全国でいろんな取組みがされており、その中でも大きいのが年度末更新です。

小牧市においては年度更新の蓄積があると思いますが、多くの学校は初めてで課題になってきます。別紙の文科省がまとめているG I G Aスクール構想 年度更新タスクリストをご参照ください。大きく4つ、アカウントの更新、端末の更新、データの取扱い、組織体制の整備です。関わってくるのは3番と4番だと思います。例えば、転出する先生のデータとか、次の学級のデータの取り扱いなど、先進的な学校で議論になっているのは、これはグーグルのサービスを使っているが、その年度でやったものを翌年度に子どもや先生方が参照できるように、どうやってアーカイブしておけばいいのかなど、色々な検討課題が出てきます。アカウントを早めに有効化してしまうと学級を発表する前に子どもたちに分かってしまうので困るという課題があります。4番目の組織体制の整備は特に大事です。係の先生が頑張るのではなく、それぞれの先生が取り組めるように校内の体制整備、こういうところをつめて、次の年度への発展をスムーズにできるよう、パイオニア校の先生方のノウハウを共有する仕組みがあるといいと思います。

次に、国の動向です。文科省の令和4年度予算の概算要求で来年度に焦点化されそうなところを挙げました。ひとつは、G I G Aスクールにおける学びの充実で、ICT活用教育アドバイザー、情報モラル、子どもたちの情報活用能力の把握に関する調査などが去年より予算増になっています。

それから、学習者用デジタル教科書については、今年度22億円が来年度は倍以上の57億円の予算になっており、全国的に実証事業を展開するなど、国がかなり力を入れています。私どもも、先進的な学校を見ていくと、デジタル教科書にロイロノートを組み合わせて活用しています。動画などデジタルコンテンツがあって分かりやすいというだけではなく、子どもたちが共有して深めていくしかけとして、デジタル教科書とクラウドを一体的に使用していかないといけない。今までの教科書と異なった使い方があり、来年度、活用するうえで課題になると考えています。先ほどお話しした教育データの話もでてきています。こどもの学習履歴などを単純に評定に使用するのではなく、どうやって子どもに還元するのか、授業に活かしていくのか、多面的な展開が考えられますので、デジタル教科書と併せて検討していただければと思います。

デジタル教科書については、私どもでやっている教育 DX お悩み相談室、月に1回、火曜、今月は来週 15 日に開催します。ご興味のある方はアクセスいただきたいです。前回、1月には、市内中学校で英語のデジタル教科書の活用について紹介していただきました。この学校は Teams を使っているのも参考になるかもしれません。見ていただいたように、デジタル教科書のいい部分と、それを授業の中に、協働的な学びにどう落とし込んでいくのか上手く設計されており、Teams の中で意見・表現の共有と振り返りを行うという使い方をしています。中学校の事例ですが小学校でも同じようなことができます。授業資料は全部公開していますので、ぜひアクセスしてみてください。

もう一つ大きいのは、C B T です。今、お試しで動いていますが、例年 4 月に実施している学力テストが C B T ベースになります。前期はプロトタイプでしたが、後期は大学等での活用など、先を見据えて動いています。さらに、全国学力調査の C B T 化を見据えた機能拡充も図られます。長野県では C B T 調査だけでなく、県がいくつかの教科を展開して、自分たちの学校の子どもたちはどこが足りていないかということ把握するために使えるようにして、学力テストの結果をすぐに返して、授業改善に活用するような取組みを目指しています。参考にしてください。

全国学力・学習状況調査の C B T 化に向けた取組みの推進ということで、今年度 1 億円の予算が 6 億円になっています。来年度は試行で、全面的に変わるのはもう少し先です。

次に、教育 DX のロードマップということで、これは、長野県教育推進センターがとりまとめたものです。令和 3 年度は 3 割くらい、さらに令和 4 年度は 6 割くらいが高いレベルの目標を立てて、ステップアップして行ってほしいです。先ほどの推進計画にも子どもが主体という記載がありました。長野県においては、今年度の目標を、子どもたち全員がクラウドによる同時共同編集ができるという、子ども主体の文言で目標を立てました。子どもたちが体験できるようになるには、先生方が体験しなければいけません。そういうことで G I G A の第一歩を進めていき、次のステップに行こうと考えました。なぜ共同編集が大事かというと、OECD が出している「正解のない問いに向かうた

めの力」として、新たな価値を創造する力、対立やジレンマを克服する力、責任ある行動を取る力、こういった力を身につけるために同時共同編集が非常に有効です。こどもたちが学ぶための新しい文房具にすべきです。新しい価値というのは、イノベーションを起こすことではありません。次のところが、小学3年生の例で、共有ホワイトボードの活用ということで、ちょっとしたことで友達の画像を消してしまったり、思い通りにならなかつたりするとか、ここをこうした方がいいんじゃないとか、〇〇ちゃんと一緒にやってつくったら、自分ひとりよりもいいものができたとか、最初は意見がぶつかったりうまいかなかったけど、話し合いながらやったらきちんとやることができたとか、自分の分担の所を責任をもってやることができたという意見があり、まさに、先ほどの OECD の大事な3つの力です。共に作り、伝え合う中でこども成長するんだなと感じました。端末の数が増えた、同時共同編集になったことにはどういう意味があるのか、それを通して、こどもたちにどんな力をつけさせるのか、引き続き検討いただければと思います。そして、それをこどもたちの姿で語れるようになると、色んなところで共有できるようになると思います。ぜひ、家庭や地域でも、こどもの姿を通して共有いただいたり、保護者の皆さんにも体験していただいたりすることが理解を深める大きな一歩になると思います。

最後の資料ですが、端末の日常化が進んでくると、最初は分かる授業で使用する、先生がメインになります。ところが、1人1台端末になると日常利用になります。変容とか再定義とあるのは、先ほど先生方の授業がどう変わっていくのかをお話しましたが、学びの個別化、クラウドの活用など、こどもたちの学び方や先生の授業スタイルが大きく変容してきて、こどもたちの学びが再定義されます。自分たちで学ぶようになります。その段階に小牧市はきています。増強と変容の間には壁があります。チェンジするには、先生方が意識していないと難しい。使うだけでなく学び方が変わる、そこをぜひ目指してほしいです。

そして最後は、自走できるように責任を移行していきます。最初は先生方がルールを決めて、最後は自分ひとりでやっていく。そのためには、先生からこどもたちに責任を

移行し、主任の先生から他の先生へ移行していく、そういうことが大事だと感じています。今後の参考にしていただければと思います。

それでは、ご質問等ありましたら、お願いします。

(村松委員長)

予定されていた議事は終わりました。その他、事務局から何かありますか。

(事務局：上原係長)

今後について、先ほど委員長からご説明いただきましたとおり、計画案につきましては、皆様からいただきましたご意見をもとに、委員長・副委員長にご相談しながら、修正させていただき、今年度中に策定・公表させていただきます。

来年度以降、策定しました計画に基づき、取組みを進めてまいります。その取組状況について本委員会に報告させていただき、進行管理を行ってまいりますので、よろしく願いいたします。

(村松委員長)

それでは、以上で議事を終了して、進行を事務局にお返しいたします。

(事務局：櫻井室長)

本日、委員の皆様におかれましては、長時間にわたるご審議、また、円滑な進行に対してご協力をいただき、ありがとうございました。

それでは、これをもちまして、第2回を閉会させていただきます。

ありがとうございました。